

## なんだ・かんだ

### ◆ LED照明 ◆

3.11以降、というよりも原発の事故以降、安定的な電力供給が約束されない状況の中、企業のみならず、一般家庭においても。「省エネ」がより一層重要な課題となっています。そして、追い打ちをかけるように今年は、電気代の値上げが行われ、大量に電気を使う企業では、収益を圧迫しかねない状況になっています。

これまで当社では省エネ商品として、「遮熱塗装」「窓用の遮熱コーティング」「水銀灯代替品のエネブライト」等のご提案をさせていただきましたが、遅まきながらここに「LED照明」を加えることになりました。

まずは、蛍光灯代替のLEDランプを中心にその後、工場や倉庫などに使われる水銀灯(エネブライトと同じ市場)の代替製品を販売していこうと考えています。

そして、その効果を実体験するために、当社1階事務所の半分に、明るさや、色目の違う以下の4種類のLEDを入れることとしました

	色温度	全光束	演色	消費電力	入力電圧
①	6500 K	1800 lm	80	22w	100V
②	5700 K	1900 lm	80	25w	100~200V
③	5000 K	2000 lm	85	20w	100~200V
④	5000 K	2000 lm	80	20w	100~200V

色温度：値が大きいほど白く、小さいほど赤みがかかる。

全光束：照明器具の明るさの尺度。単位はルーメン

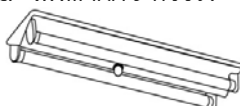
演色：太陽光の元で見えるモノの見え方を100としたときの数値100に近いほど自然の色に近く見え、80以上が推奨される。

当社事務所への設置工事に際し、いくつかのアクシデントがありました。一つは、電灯電源が200Vであったこと。これにより①の100V専用タイプで色味が一番白いタイプのLEDは除外されてしまいました。電灯電源は当然100Vだという先入観が原因でした。事務所など蛍光灯の本数が多い部屋では200Vが使用されることが多いということです。

二つ目は、当社の器具は大変古く、LEDを器具に取り付ける部分の口金の向きが縦1列の固定であったことです。LEDは上部の約半分が熱を逃がすためのヒートシンクになっているので、蛍光灯と違い光は全方向を照らしません。従って、下方を照らすべきものが側面しか照らさない状態となり、結局器具交換となりました。これはLED側で口金が回転するタイプがあるので、事前に分かっていたら問題なかったのですが、下調べが甘かったということです。

取り付けてみると、ランプの光を直接見ると、蛍光灯のような柔らかな光ではありませんが、直接見なければ、気になりません。また、肝心の蛍光灯と比べた机上での照度も問題なく、部屋全体の明るさも蛍光灯よりもむしろ明るくなったように感じます。

蛍光灯に比べLED照明は、長所としては、寿命で約5倍。消費電力で約半分になります。但し、インバータータイプの蛍光灯と比べと省エネ効果は半減されます。また、安定器を



### ■ ビジネスマナー研修を実施しました ■

8月18日お盆休みの後の土曜日、対外的には会社を休みとして「ビジネスマナー」の社内研修を実施いたしました。内容は、○ビジネスマナーの意義と必要性、○クレーム対応、○電話対応。と今更?というような内容です。

今年入社の新入社員から60歳を過ぎた社員まで全社員で受講したのですが、「今更マナーなんて」という態度の社員がいるかと思ったのですが、皆、積極的に討論し、メモを取る等真剣に受講していたのがとても印象的でした。

そして、「マナーの心とは、自分主体ではなく、相手を主に考えた行動や言葉」であることを学びました。

セミナーで学んだことを、その場だけの意識の高揚に終わらせないようにしていきたいと思えます。



やっと秋めいてまいりました

暑さ寒さも彼岸まで。今年の夏はほんとうに暑い夏でしたが、ここに来てやっと涼しくなってきました。それも夜は相当冷え込みます。涼しくなってきたのは良いのですが、今度は台風が続き、18号は日本をかすめていききましたが、今後大型の17号の動きが気になります。暑さ寒さも、雨の量も、ほどほどというわけにはいかないのでしょうか？

さて、9月で半期が終わります。この前半は、昨年からの勢いで何とか乗り切っていました。例年、当社では前期よりも後期の方が売り上げが多くなります。特に年度末の売上はその他の月に比べ大きくなる傾向にあるので、このまま前期の勢いで行けば今年もなんとか乗り切ることが出来そうです。

しかし、いつの時代でも順風満帆というわけではなく、勢いを阻害する要因は常に存在します。今は、欧州の経済危機、中国の減速に加え、尖閣諸島等の領土問題という余分なモノまで浮上しています。

そんな逆風をもととせず、10月以後の後半も、社員一同一丸となつて、攻めの営業で期末の3月末まで頑張っていきますので、宜しくお願い申し上げます。

代表取締役 服部 敏一郎

## チキリについて⑨

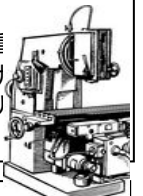
### ● 装置・設備の設計製作 ●

創業当時船具販売を主にしていた時代から、昭和50年代中ごろにかけて、営業部では、主に製造工場で使用される機械や工具そして、建築・土木の現場で使われる機器や資材で、メーカーさんが作る、塗料・ワイヤロープ・機械工具を中心としたいわゆる既製品(一部ワイヤロープについては社内で加工を施しています。)を、販売していましたが、30年ほど前から、工場の設備機械の一部を、お客様の希望の仕様に従って設計から製作までできるようになりました。

最初は塗装に係る設備を設置工事も含めて受注していました。そして、塗装に関係のない設備機械の特注品を請け、メーカーで設計から作ることから始まり、その後、プレスやコンベア、加工機そして、特殊な検査機器等単品の機械を請けて、設計屋さんで設計してもらった図面を基に社内でも組み立てをして搬入・設置することまでできるようになりました。

今では社内での組み立てはすることはなくなりましたが、お客様の要望する仕様を基に、メーカーに委託して専用機を作ることにはしています。

設備機器は、納入後のメンテナンス体制が大変重要です。納めた製品にトラブルがあり、放っておけば、お客様の生産がストップしてしまうこともあります。大変責任ある仕事です。



本レターのご提供に付きまして、ご不要・ご迷惑という方に付きましては、その旨ご一報頂きたいと思えます。次回からの発送を中止させていただきます。N